

政府関係機関の地方移転に係る 提案書を国に提出しました



統括本部 さが創生推進課



政府関係機関の地方移転について [提案募集の概要]

◎提案募集の目的

東京の一極集中を是正するため、地方の自主的な創意工夫を前提に、それぞれの地域資源や産業事情等を踏まえ、地方における「しごと」と「ひと」の好循環を促進

◎募集期間

平成27年3月3日～8月31日

【対象となる機関】

- ・ 東京都にある政府関係機関
- ・ すべての研究機関・研修所(東京圏等所在123機関+地方所在127機関)
(東京の一極集中を是正する観点からみた提案を行うもの)

【提案資格者】

- ・ 東京圏(1都3県)以外の道府県
- ・ 県域を超える広域連合

佐賀県からは2機関を提案

佐賀県への政府機関移転に係る提案 ① 気象大学校

概要

気象大学校は、気象庁の職員（気象大学校学生を含む）に対して気象業務に従事するために必要な教育及び訓練を行う気象庁の施設等機関である。

○ 所在:千葉県柏市 ○ 敷地面積:57,967㎡ ○ 職員数:94名

移転候補地

○ 佐賀県佐賀市 他（県及び市町の所有地を複数提示）

国（気象大学校）のメリット

○ 本県は、地震などの大規模災害のリスクが少ないため、地震の少ない環境で、気象業務に従事するため必要な教育及び訓練が可能。



※写真:気象大学校ホームページより

本県のメリット

- 本県は、台風などによる風水害に対応してきた経験から、「危機管理の基本は気象である」と認識。今後も、危機管理対応において積極的に気象データを活用したいと考えている。このため、気象の専門家を有し育成する気象大学校を誘致し、様々な形で連携を行うことにより、本県の危機管理対応の充実・強化が図られるものと期待。
- 高等教育機関の数が少ない本県において、高度で専門的な人材育成を行う環境を新たに整備することにより、本県が地方版総合戦略(案)に掲げる基本目標「新しいひとの流れをつくる」の達成に大きく寄与。

佐賀県への政府機関移転に係る提案 ②

(独) 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部

概要

薬用植物資源研究センターでは、薬用植物に関する国内唯一の総合研究センターとして、薬用植物の栽培・育種に関する技術、化学的・生物学的評価に関する研究開発などを行っている。

○所在:茨城県つくば市

○敷地面積:45,814㎡

○職員数:10名

移転候補地

- 佐賀県唐津市 他 (県及び市町の所有地を複数提示)

国(医薬基盤研究所)のメリット

- アジア向け化粧品の製造・輸出拠点を目指す本県唐津地区のコスメティック構想において、天然由来原料の供給地としての強化が図られ、フランス企業とのビジネスマッチングや高品質のコスメ商品をアジア市場へ展開していく対外直接投資に大きく寄与。
- 玄海町薬用植物栽培研究所との連携。
- 地震などの大規模災害リスクが少ない中で研究が可能。

本県のメリット

- コスメティック産業の集積等を目指すコスメティック構想における薬用植物の活用拡大や関連ビジネスの拡大。
- 研究者等高等教育を受けた人材の受け皿、国内外の研究者の定住・交流促進。



**移転の実現に向け、
取り組んでいきます。**

お問い合わせ先

佐賀県 統括本部 さが創生推進課

TEL:0952-25-7506 FAX:0952-25-7423

MAIL : sagasousei@pref.saga.lg.jp